

医学生が努力がまぶしい

留萌市民
おがわ かずひろ
小川 一弘さん

それぞれの目的に向かって真っすぐ努力している医学生たちの姿を目の当たりにし、非常に生き生きと輝いていたように感じました。

地域の実情や高齢者の心情を分かってもらい、そのことを忘れずにそれぞれ将来の職業に携わってもらえれば本当にありがたく思います。

名患者を目指して

留萌市民
おがざき ほつえ
岡崎 初江さん

私がこうやって今元気なのは、留萌市がいろいろなかで進んでいるおかげなのだと感じています。

私もこれを機に生活習慣を改め、悪い習慣をやめ、良い習慣を取り入れながら、名医ならず名患者を目指して、毎日少しずつ努力していきたいと考えています。

医療人育成を応援しています

医療人材の育成に期待

留萌振興局保健環境部長
おおはら つかさ
大原 幸さん

留萌管内は、全道的に見てもドクターも看護師も少ない状況にあります。

留萌市では、医療機関にとどまらず地域全体で、将来の地域医療を担う医療人材の育成に取り組んでおり、北海道としても大きな期待を持っています。

医学生の話し相手に

留萌市立病院院長（当時）
ささがわ ゆたか
笹川 裕さん

医学生たちは、ただ地域を見るだけにとどまらず、地域の課題を考えることやその課題解決に向けた方法について懸命に答えを考えています。

皆さんには、医学生と積極的にコミュニケーションをとってもらい、医学生への期待や要望などを語りかけてほしいと考えています。

地域医療を知るきっかけに

札幌医科大学医学部4年生
かわた ゆか
河田 由香さん

地域に入り自分の目で見ることで、自分が将来この地域で働いたときのイメージを明確にすることができました。

実習を通して、市民の皆さんが地域医療に対して非常に高い意識と大きな期待を持っていることを知ることができ、とても感銘を受けました。

地方に必要な医療を学ぶ

札幌医科大学看護学科4年生
ほんま ひろむ
本間 公さん

私は、道東地方での研修に参加しました。地域の方とかかわることで、どのような特性があるのかということを知ることができました。また、その地域に必要な医療についてや「看護師としてどのようなことが自分にできるのか」ということを考えるきっかけになりました。

現場の教育体制が重要

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療分野教授、
離島・へき地医療学講座離島医療研究所教授
まえだ たかひろ
前田 隆浩さん

医療人材を育成してゆくためには、現場の教育体制がとても重要で、多職種の方や地域の方の協力がなければこの教育は進みません。

教育には、手間や労力もかかります。「将来の地域医療を支える人材をみんな育てる」という意識が根付くことが大切だと考えています。

コホート研究を生かし

NPO法人るもいコホートピア理事長、札幌医科大学医学部教授
こかい やすお
小海 康夫さん

この超高齢社会は人類史上、始まって以来のことです。今後どんな状況を迎えるかは誰も分からないのが現状です。そのため、皆さんのご協力を得ながらコホート研究を進めていかなければなりません。

この研究成果を医学生たちのための教材としても使っていただきたいと思います。



地域ぐるみでの医療人育成に取り組んでいます②

市では、6月に中央公民館で「地域ぐるみで医療人育成を」と題して市民公開講座を開催しました。



※「特集:地域ぐるみでの医療人育成に取り組んでいます」は、広報るもい7月号（No.688）に掲載しています。

市民公開講座を開催

市は、札幌医科大学と連携し、医学生との地域医療実習の受け入れなど医療人材交流拠点形成事業に取り組んでおり、「市民公開講座「地域ぐるみで医療人育成を」」は、この事業の一環として開催しました。

講座では、市立病院や札幌医科大学などの関係者や市民の代表らが、留萌での取り組みに対する考えや思いを語り合い、地域医療教育の重要性について知識を深めました。

※講座のパネルディスカッションで発表した方の発言を一部抜粋し、次の頁で紹介いたします。

皆さんのご理解とご協力を

地域ぐるみでの医療人育成を進めるためには、まずは皆さんに地域医療教育の大切さを知ってもらうことが何より重要です。市では、地域医療を守る取り組みについて皆さんと一緒に考えながら、医療人育成に取り組んでいきます。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

■コラム「医療人の育成を通じて、健康市民を育てる」

「医療」「介護」「福祉」の連携深まる 医療人育成は健康を考える機会

言しました。行政としての役割には、産業や経済、雇用などさまざまなものがありますが、市民の健康を守るためには、「医療」「介護」「福祉」のつながりをしっかりしていかなければなりません。

医学生の受け入れを通じ、「医療」「介護」「福祉」の連携がさらに深くなったと感じています。そして、これから医療で北海道を支える医療人の育成に市民全員でかわっていくという目標を新たに持つことができました。

「留萌市は、健康都市宣言をしているまちとして何ができるのか」ということについて、皆さんと一緒に考えながら行動し、皆さんとともに次の世代へ伝えていくことが、私たちの重要な役割だと考えています。

札幌医科大学をはじめ、道内医育大学の学生たちが実際に留萌へ来て地域医療の現場を学ぶことは、それに関わる市民にとっても地域の健康のことを考える良い機会となり、お互いの気付きを共有することは、留萌市が目指す「健康長寿のまちづくり」につながると考えています。

留萌市では平成17年に、全ての市民が健康な心と身体で元気に暮らし、活力ある地域社会を目指し、市民が健康であることを願った「健康都市るもい」を宣



留萌市長
たかはし さだとし
高橋 定敏